

学校・家庭・地域の「協働」の機運を高めるために

名張市立錦生赤目小学校

学校・家庭・地域の協働が求められる背景

子どもたちの「生きる力」は、学校だけで育まれるものではありません。子どもたちは、地域社会とのつながりの中で、絆を育み、豊かさ・たくましさを身に付けていきます。

そのためには、**学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、協力・連携して取り組むこと(=「協働」)**が不可欠です。そして、そのことが「地域とともにある学校づくり」にもつながっていきます。

協働に必要なことは、「熟議」と「マネジメント」

「協働」の機運を高めるためにも、学校・家庭・地域にかかわる多様な立場の人たちが参加して、「関わってよかった」と実感できるような「熟議」のテーブルをつくるのが大切です。

そして、熟議で話し合われたことを新たな関係性を軸にしながら、実際に行動に移していく「マネジメント」に発展させていくことが、協働には求められています。

熟議は、実現・実行に向けたアイデアだし

普段見ている子どもたちの様子や、子ども・保護者アンケートなどから見える課題や問題点などを参考にして、参加者で思いを出し合い、「学校・家庭・地域が協働し、どんなことができるのか?」、その実現に向けたアイデアだしをすることに、熟議の意義があります。

